

2014年度 日本学連臨時幹事会 議事録

発言者 (敬称略)	発言内容など
	幹事会開始: 13時06分
	3.インカレスプリントについて
	<p>インカレロング前日に開催した、「インカレスプリント試行大会」についての反省や、その直後に集めたアンケートの結果を整理し、インカレスプリントの目的・日程・運営の在り方・実施規則などについて深く議論した。そして、12月に予定される臨時総会で、正式な立ち上げを認める承認を得るために、議論の結果を周知し、意見を求めることとなった。</p> <p>なお、その他細かい議論については、次回幹事会以降に先送りされた。</p>
宇井	<p>インカレスプリント試行大会の反省と、規則として決めなければいけないことを明らかにすることであるだろう。それらについて話し合いたい。</p>
宇井	<p>【インカレスプリント試行大会の反省】</p> <p>まずは山上さんに報告をお願いしたい。</p> <p>資料(報告書)読みあわせ (14時14分 野本 出席)</p>
山川	<p>似て非なるものとして、スプリントとパーク0の違いを一度整理しようと思っている。</p> <p>パーク0はみんなのものであり、私が開催してきた大会のほとんどはその部類に入る。一方、スプリントはショーであり、いろいろ突き詰めていけば、結局エリートだけのものである。「オリエンテーリングをオリンピック競技にするために、オリエンテーリングをより多くの皆さんにわかってもらう」ことを目的とする戦略的な種目であり、また、他のスポーツと同じように、人間の能力のある部分にフォーカスを当てて、優劣をつけようとする、先鋭的な種目でもある。それはオリエンテーリングがずっと昔からやってきた「Sport for all」というものとは趣が違っている。本当にスプリントをやろうとした時には、いろいろな壁にぶち当たるので、1つの形になるようなもの(として、今回、インカレスプリント試行大会)を開催した。</p> <p>インカレスプリントには4つの大きなコントロール側面があり、いずれにも予算が関わってくる。</p> <p>まず、メディアコントロールでは、カメラの向きや実況する内容まで、すべてコントロールされる。世界では、「どこにテレビクルーを置き、どのように行うのか」、1つの種目のために、時間を多くかけて打ち合わせやリハーサルが行われるのだが、日本では全然厳しい。</p> <p>また、コースコントロールとイベントコントロールについては、昔からミドルやロングで行われてきたので慣れていることである。</p> <p>あと、ミドルやロングでは、「マッパーの作品の中でみんなが競技をすべきである」という考え方が主流であるので、(他人が)手を加えることはほとんどないが、スプリントでは、マッピングコントロールとして、公平性を害しているとベテランが判断した場合、どんどん修正を加える。本来は正式に役職があるのだが、今回は私が裏で、かなり時間をかけて行った。マッパーの出してきたコースが細かすぎて、「瞬間で判断できるものではない」と判断したため、直前1週間でほとんどを書き換えた。より見やすいものが提供されなくてはいけないので、どのくらい誇張していいものか、経験で得られたものを提供しているつもりである。</p> <p>予算面について言えば、「参加費だけで工面できる大会ではないので(インカレスプリントは)開催しない、という発想はやめよう」という趣旨で昨年から議論が始まっている。今回については、20万円を上限として幹事会決済で赤字を補てんすることとなっていたので、(実際に出た赤字である)79,575円については今回は埋めてもらいたい。ただ、実行委員会には相当努力してもらったと考えている。地図調査代25万円については、3人のプロマッパーの見積もりを根拠に、西村氏の見積金額をそのまま採用した。また、交通費は実際の金額をそのまま請求したものの、観戦ガイドについては材料費のみが計上されている。</p>
山上	<p>交通費・宿泊費については、実際はスプリントの試走をした日にかかった金額の4分の1をスプリントの会計から支出した。(スプリント会計では)「山上」と書いてあるもの以外の項目は、試走者全員分の経費を計上した。</p>
山川	<p>備品については(インカレロングと)共用のものを使った。消耗品については一切スプリント会計には含まれていない。あと、正式大会ならば大きな優勝カップを作るが、今回は私がメダルを寄付し3月の(インカレスプリント実験大会での)失敗は、4つのコントロールをすべて一人でやったことだった。(本来は)経験者が3人ぐらいは関わって、積み重ねていくものである。まだ正式な決議はないが、始めてから2・3年はいろんな問題が出てくるだろうし、今回も新しい問題が出てきたのだが、それはインカレロング・ミドルでもたどってきた道のりである。ロングでは10年経って定着しても、なお新たな問題が出てきた。</p> <p>また、スプリントとパーク0との違いを意識していく(ことも大切である)。エリート種目であり、かつ観戦するための種目であるので、「観戦ガイドが先に配られたために、チャレンジクラスがつまらなかった」という意見は本末転倒である。一言アナウンスすればよかったのかもしれないが、スプリントはそういうものであり、チャレンジクラスを走りたければ観戦ガイドは見なければいい。そういう意見を出すということはスプリントを理解していないということである。チャレンジクラスはパーク0の部類であり、スプリントではない。</p>

	他のスポーツにはOBが評議員や理事として、重要事項をすべて決めてしまうものがあるが、オリエンテーリングでは議決権は学生がみんな持っている。学生が主催であり、OBは舞台を作る役割である。インカレスプリントを立ち上げるかどうかの議論も幹事会や総会に委ねられているが、学生が責任を持って決める話である。決してお客さんではない。
山上	(インカレスプリントを議論するために)全日本リレーで臨時総会を開くことになると思うが、極力新しい質問が減るように、みんなが持っているような疑問をこの場を出してほしい。その方が、議論がスムーズに進むと思う。
宇井	各大学から出された意見を私がまとめた。それを見てほしい。(資料5参照) 1. 来年度の開催について 来年からの開催については、賛成が圧倒的に多かったが、個人の意見などとして反対も若干い日程については、今回のようにインカレロング前日が多かったが、翌日がよいという意見もあった。独立開催がよいという意見も2校から出された。
	2. 観戦ガイド、エリア、演出について 観戦ガイドについては全体的に好評だった。(観戦ガイドに)ルートまで書くべきでないという意見もあったが、「ルート解説が書かれていて見ごたえがあった」という意見が圧倒的に多かった。その一方、「観戦エリアについてはどこまでが(立ち入っても)OKなのか指定してほしい」、「チャレンジクラス出場者からは観戦ガイドを見たくなかった」という意見が出された。
山上	あと、「スプリントの参加者が翌日のロングでは有利であったのではないだろうか」という意見がいくつかあった。確かに、公園付近で、具体的にみれば、2、7～8辺りがそのような気がする。
宇井	(翌日のインカレロング)選手権では、ポストはなかったが、ビジュアル通過後のまわしが(スプリントのポストでは)2→7→8というものだった。
宇井	僕はスプリントを走らなかったが、ロング選手権を走った個人的な感想として、2ポから北東にある門のようなものが通過可能かどうか判断するとき、スプリントを走った選手の方が有利だったのかもしれない。ただ、地図を読めばいいだけの話である。
山川	ロングの地図では、その門は通れるように描かれていたのだろうか。
山上	全然見えなかった。
宇井	見えないと思い、避けて通った。
山上	スペクテーターレーン(スプリントの)8ポまで伸ばそうという案があったのだが、「門のところまで伸びていてもいいのだろうか」という話になった。(ただ、結果的には)確かに多少良くなかったのかもしれない。
齋藤	今回のスプリントでは、スペクテーターレーンはなかったのだろうか。スペクテーターエリアだけだったのだろうか。
山上	レーンは全くなかった。(レーンがあるのは)フィニッシュだけだった。
宇井	また、地図回収についても意見が出ていた。ロング本番で地図を見るのを防ぐために、スプリント終了後に地図を回収し、ロング後に返却すべきという意見があった。
	あと、観戦ガイドの枚数が足りなかったという意見があった。
山川	それは言いがかりである。800枚印刷したが、200枚余った。
齋藤	配布方法の問題だろう。配布するだけなら学生を動員してもよいだろう。
山上	当日の配布はOBが行っていた。
宇井	観戦エリアについては、「(選手を)近くで見ることができてよかった」「広くてよかった」という意見がある一方、「(観戦者が)競技の邪魔になった」という意見も多くあった。
山川	「(観戦者が今回の試行大会のように)あの人数なら、アリーナ式の方がよいだろう」と反省点として、やってみて気づいた。
齋藤	現地を見ていないので何とも言えないが、海外ではどのような方式で行われているのだろうか。
山川	全部アリーナ式である。
齋藤	ただ、海外の場合は、ルートチョイスが日本のようにポスト周りだけではなく、出発の時点で分かれるので、ポストの近くに人がいるとわかってしまう。公平性の面で問題だろう。
山川	(海外の場合は)街の中で行われるうえ、GPSトラッキングと映像が世界中にWEB配信するので、それに通じるところがある。
齋藤	海外のスプリントはポスト位置がもっと簡単である。人がいるかいないかは関係ない。
山川	Web配信されている映像を見ても、観戦する場所を柵で区切って指定している。
山上	アリーナ式の場合はレーンを設けることが多い。今回はレーンがない方が面白いだろうと思い、それを作らなかった。
大西	私が思ったのは、海外以上に、特に1ポに人がたくさんいた。おそらく何百人もいた。
山川	私も山上・実行委員長も、それは反省点だと思っているが、1ポと12ポ～13ポのベストルート上に人がたくさんいたことについては、観客の質を上げなくてはいけないと思う。次回はそのあたりをコントロールしたい。
大西	(個人的には)12ポ～13ポはあまり気にならなかった。1ポ～2ポは正直顔を上げて何も見えなかった。(観戦者を)気にせず走れた。ただ、地図が読めていないのもあるが、あれだけ人がいると気になる。(選手はポスト周りに)あんなに人数がいるとは思わないので、何百人もいるようであれば、固まる位置を事前にだいたい指定した方がいいだろう。
佐藤	「とりあえずみんなあっちに行こう」という流れがあったのだと思う。
糸井川	私は会場付近にいたのだが、見やすく楽しいと思った。
宇井	あと、公園は一般の方が多かったのも、選手との接触の危険という意見があった。

	演出については、「ゴール周辺にしか聞こえない」という意見が結構多かった。「1ポや公園の方にはあまり聞こえなかった」「スピーカーを用意してほしい」、また「GPSを付けてほしい」という意見もあったが、それは運営的に厳しいだろう。
山川	(GPSを導入するは)予算が3倍くらいないと厳しい。
	3. チャレンジクラス、一般クラスについて
宇井	「チャレンジクラスを設けた方がよい」とした大学のほとんどが、「フリースタートでよい」という意見であった。モデルイベントとの兼ね合いや運営者の負担軽減を理由に挙げる意見が多かった。「時間差スタートにするべき」という意見も2校あったが、その理由は「公平性がない」ということだった。ただ、もともとチャレンジクラスの意図は競技(を行う)というよりはトップ選手との比較である。一般クラスについては、「必要だ」とした大学より、「必要ない」とする大学の方が少し多かった。「必要だ」とした大学からは、「インカレとして開催するのなら、学生全員が走れる環境を提供すべき」とか「スプリントを広めるのなら、インカレでもたくさんの人が走れる場を提供すべき」という意見があった。一方、「必要ない」とした大学からは、「モデルイベントの時間」や「運営の負荷の軽減」を重要視する意見があった。
山上	少数だが、チャレンジクラスも一般クラスもいらないという大学もあった。チャレンジクラスは参加者がいるときにいった方が、収支的な問題でだいぶ違う。「必要ない」という意見は少し変だと思う。
	4. エリート人数について
宇井	エリート人数については、「ちょうどよかった」とした意見も結構あったが、「多かった」という意見が多数だった。募集したときにあまたという状況があったので、特に女子については減らすべきという意見が多かった。
	5. 隔離エリアについて
宇井	「(隔離エリアから)1ポが見えた」という意見が結構あったが、位置的におそらくスタートポストが見えたという間違いではないだろう。
山上	見えないようにしたつもりだったが、それはミスだった。
大西	(1ポは)階段を上らないと見えないと思う。
宇井	あと、オフィシャルを隔離エリアに入れてほしいという意見もあった。あと、「ウォーミングアップエリアが狭かった」とか「そもそも隔離エリアに関しては、運営側が最善の判断を行い設置していると考え、不満があった場合にはそれは地形や会場の都合で仕方が無いものであるだろうと判断する」という意見もあった。
	6. その他
宇井	「(スプリントは)日本独自のやり方でやるべき」という意見などがあつた。また、「日本学連の幹部の人たちはインカレスプリントに賛成なのか、反対なのか。」という質問もあった。
山上	共通認識を広めていかないと、今回の観戦の問題のようなことが起こる。アナウンスが不足していた部分もあると思うので、(その部分を)意識してほしい。なかなか議事録は読まれないと思う。
宇井	あと、表彰式については、「ロングの表彰式と一緒に行うのではなく、スプリント単体でやってほしい」、「おまけのような雰囲気が出ていた」という意見があつた。
山上	モデルイベントとの時間を考慮したが、そういう意見もあると思う。
宇井	インカレロングのクラスが多いので、表彰式が長い分、おまけのような感じがしてしまうのは仕方がないと思う。
宇井	来年度の開催について賛成する大学が多い。開催するとした場合、問題になるところ、どこに不満が出てくるのか明らかにしていきたい。
山川	たぶん5年くらいはそれがいくらかでも出てくると思う。2回開催して大きな問題が出てきた。そもそも、総会でこのように、スプリントは全部の問題を解決することができない種目である。総会への発議権は幹事会にあるので、議決を取るかどうかを決めた後、どの価値観が一番重きを入れるのか考えていきたい。
	【観戦エリアについて】
宇井	まず課題としてあげられたのは、観戦エリアについてである。これについてはある程度制限すべきなのだろうか。それとも今回のようにある程度自由に観戦できるようにすべきなのだろうか。
大西	スプリントを観戦するときは、選手を邪魔しないように見るのが基本だが、今回の観戦者の多くがそのことをあまりわかっていなかったと思う。観戦エリアをどうするかについては大会にもよるので、まず見る側の意識を変えればよいと思う。周りに人が密集していても、ルートさえ確保されていれば、それがスプリントだと考えることができるだろう。
山上	今回の反省を踏まえて次回以降のコースセットに生かしてほしいが、観戦エリアは学生側が決めない方がよいと思う。コース設定者側の都合がある。
佐藤	特に(スプリントについて)あまりわかっていない1・2年生がスタートの方へ多く移動していた。上級生は(選手権出走のため)隔離され、一般の人はゴールの方において、指示ができなかった。各大学の渉外や(日本学連の)幹事が見る方の意識、ルートを邪魔しないことなどを徹底させればよいと思
	【インカレスプリントの目指す目標・目的】

山川	細かい方に話が行ってしまうので、課題の前にまず目標や目的を設定した方がよいのではないだろうか。 スプリントは世界選手権のあるフット04種目のうちのひとつであるものの、今までインカレでは見て見ぬふりをしてきて、全日本スプリントに乗っかろうとしたがうまくいかなかった。 インカレスプリント創設の目的について、もう一度きちんと簡潔に規定すべきである。「インカレロング・ミドル・リレーと同じだけの価値を作り出す」ことが目標であることを文章で規定したほうがよい。まだスプリントに価値を見出していない人が多いし、マナーや意識の問題があるが、根本的には、同じだけの価値あるのかどうか問われることになる。それが出来なければ、導入意義がなかったということになる。学連が共通目標として謳い、そのうえで課題に優先順位をつけて解決していけばよいだろう。
齋藤	スプリントとパーク0の違いがわからない人やスプリントをわかっていない人がいる。みんなにスプリントを広めていくにあたって、「スプリントとはこういう競技である」という、(もともとある定義より)もっとわかりやすい、スローガン等を学生の中で決めてほしい。そして、「だからこそインカレとして導入して、こういうことを目指す」という流れがあった方がよい。
宇井	スプリントの定義として何があるだろうか。
齋藤	そもそも、ロングとミドルについて、みんなはどのように考えているのだろうか。
山川	ロングやミドルは価値のある大会だとみんなに思われているが、それは積み重ねたものがあるからこそその結果である。かつては運営がぐだぐだで袋叩きにあったこともある。それでも、なぜ学生に投票権があるのかという、価値を作るのはOBではなく、参加する学生だからである。オリエンタリングの学連を作ったとき、その仕組みは陸連に倣ったのだが、そこでは学生の幹事長が一応仕切っていて、箱根駅伝の主催も学生である。実情は違うが、オリエンタリングにおいても「学生が自ら価値を作り、OBはそれを補助するだけである」という考え方がある。
佐藤	日本ではスプリント競技をする機会が少ないので、パーク0との違いなどを説明が難しい。ミドル競技やロング競技はまだたくさんある。
山上	そうやってきたのは最近のことであると思う。ロング競技はかつて珍しいものだった。私が現役の時は、ロングとミドルの違いは、距離の違いぐらいだった。
佐藤	最初は「学生の中からスプリント競技で一番早い人を決める大会」という位置づけにして、それを繰り返していくことで価値を増していくものだと思う。そして、「高速なナビゲーションが求められる競技」、「速いルートチョイスと実行力」がスローガン、目標だと思う。
山上	観戦者がいる中で正しいナビゲーションをするというのも大きい。
山川	一番大事なものは継続性であり、さらに、コース・トレイン両面における競技性、観客の多さ、公平さ・公正さが必要である。 全日本スプリントと一緒にやっていた頃は、予算的な思惑があったため、インカレスプリントを否定した。しかし、価値を持っていなかったために、結局、大会を主管する県協会に迷惑をかけることとなり、観客の多さという点で失敗した。 今年の全日本スプリントは200人余りが出場したが、インカレではモデルイベントで750人、選手を除けば650人くらいは確実にスプリントを観戦したので、JOAの持っている仕組みを圧倒している。それを私は大切にしたいと思っている。 競技性と公平さ・公正さはそれぞれ別々のものである。今年のインカレを見ても、植え込みや人がいるところの通行管理や、読みやすい作図がどうかを徹底的にみる、マッピングコントロールの必要がある。完全な公正さを追求するときにない競技なので、ある程度のところで最大努力として、大枠を規定した方がよいと思う。また、開催時期も観客の多さに関わると思う。
宇井	継続性や会計の観点から考えても、観客の多さを踏まえて、ロング前に開催するのがよいだろう。
山川	ただ今年より魅力的でないトレインしかない場合も想定されるので、そのときはどう対処するか、準備しておかなくてははいけない。
佐藤	それはトレインが決まらないと何とも言えない。ただ、スプリントに求められているものを知るための分かりやすい指標として、「速いルートチョイス」と、「人が見ている中で競技する力」が例として挙げられると思う。特に新人などに説明する場合はこんな感じだろう。
大西	もともと3月に試行大会があったが、いろいろな問題点が出て、6月に今回を第1回の正式大会とすることは厳しいとして、試行大会を開催した。ただ、スプリントをすることに對する反対意見はそれほど多くなく、どちらかというと大会の問題点を上げている。アンケートをすべて見ていないが、今回の結果で、学生全体として「スプリントをやっぺいこう」という流れがあれば、スプリントの定義をしっかり作っていかなくてははいけないが、1番話し合わなければいけないのは、(インカレスプリントを)どう継続していくかということだと思う。特に問題がないのなら、次回は「第1回インカレスプリント」になるのだろうか、今重要なのは、観客の多さや競技性より継続性だと思う。
宇井	継続性に焦点を当てていくにあたって、誰がどのように運営するかなども問題だろう。
	【日程について】
佐藤	日程についてはほとんどの大学が、「インカレロング前日がよい」としている。(インカレスプリントを正式に立ち上げた場合)ずっと日程はインカレロングの前日でよいのか。
山川	それでよいと思うが、そのように決めてしまうと、身動きが取れなくなる可能性がある。柔軟性を持たせた方がよいと思う。具体的な案ではないが、観客が多いのなら、選択肢はもう少しあると思う。
宇井	このアンケートの結果では、聞き方の問題があり、結果としてはロング前日が多かったが、別の案はないだろうか。
山川	選手紹介をなくせば、ミドルの前日にもできるが、それはみんな嫌だろう。

- 宇井 「ミドルと一緒にに行くことは厳しい」という意見が結構多かった。今のところは、現実的に、ロング前日という認識で行きたい。
- 山川 日程を固定しない議論を希望する。基本的にはロング前日というような言い方にしてほしい。観客が多ければOKという程度にしておけばいいだろう。
- 【運営の在り方について】
- 平野 インカレロングは都道府県協会にお願いして運営することがある。例えば、嶽山でのインカレでは大阪府協会と一緒にやっていた。そのような場合、スプリントをどのように運営していくのか、また、お願いして断られたらどうするのか、現実にはあり得るので、そういったことも考えた方がよいと思
- 宇井 運営のリソースが問題になるということである。基本的に誰にどういう依頼をしようか。
- 大西 依頼するよりも、インカレスプリント実行委員会を立ち上げた方がよいと思う。運営自体はインカレロングの実行委員会と協力することとして、その人たちが責任を持つようにすればよいだろう。ロング実行委員会にお願いすると、断られる可能性がある。
- 宇井 それでは、インカレロング実行委員会とは別に実行委員会を設けることを決めた方がよいだろう。
- 山上 「そういうこともある」としたほうがよいと思う。今回の場合、一緒だったメリットの方が大きい。
- 山川 会計処理の面からもメリットが大きい。仕事量が増えるだけで、宿泊費・交通費はほとんど変わらない。
- 山上 インカレスプリント実行委員会を作ると決めた場合、インカレロングの実行委員会を分けるのは面倒くさい。ミドルとリレーのように合流できるときは合流したいが、分けなければいけない時もある。選択肢を持つことは大事だが、そこまで決めてしまわないほうがよいと思う。
- 大西 それならば、インカレロング・スプリント実行委員会という形にすればいいだろう。
- 山上 その方が実際いいと思う。
- 山川 (実行委員会を分ける)メリットもある。継続性を第一に考えた場合、トレインがどうしてもないとき、ロングとは別の場所で開催するしかないが、ロングとスプリントの運営を1つの実行委員会に課されるのは厳しい。たださえ実行委員会の人員を集めるのが大変なので、幹事会で決済できる枠でプロにお願いしてやってもらうことになるが、その時に役員はいないので、公正さの確保のために、当日の立ち番の役員にある程度の学生を動員するのがいいと思う。陸上の世界では普通に行われていることである。OBからは学生の間は競技に専念させたいと反対する声があるが、スプリントに関しては、(他の種目とは)趣旨が違うので、公正さの面から、学生の動員はありだと思。継続性のためなら、想定されることとして議論した方がよい。
- また、継続性について考えると、渉外が大変である。スプリントは渉外上のハードルがとても高い。公園では、人が走って通行したときに衝突の危険などがある。
- 山上 個人的には、学生の動員もよいが、それよりも中心人物を見つけられるかどうかの方が大事である。今回のインカレでは私が中心となったが、1~2人の中心人物が欲しい。
- 山川 1~2人では厳しい。本来は重要な部分は5人くらいで行う。3~4人くらい経験者がいた方がよい。中心人物を経験者がまわりから支えるような形である。
- 田村 中心人物というのは1つの大会における中心人物なのか、それとも継続していく上での中心人物なのか。
- 山川 継続していくための将来像を描いていくことが必要なので、継続して関わっていく人物が必要である。
- 五味 インカレスプリント実行委員会の中に山上・実行委員長のような方に入ってもらい、ロングの実行委員会と話し合いながらスプリントを準備していくものとなると、ロングの実行委員会がスプリントも実施した今回のインカレとは、運営の形が異なっていくということになるのだろうか。インカレスプリント実行委員会を設けてロング実行委員会と協力していく形なのか、今回のようにインカレスプリント・ロングを1つの実行委員会運営できるという前提で準備を進めていくのかどうかで、(話が)変わってくると思う。
- 山上 それは実行委員会の性質次第だと思う。今回のように学生OBで構成される実行委員会なのか、それとも地域クラブや県協会が母体なのかによって、それが変わってくる。今回はトレイルの場合は、トレイルの協会の山口氏から、「インカレトレイルと名前は付けないが、(3日目に)トレイルを行い、そのついでに実行委員会に協力する」というお話があり、実際に数人にインカレロング実行委員会に入ってもらった。その結果かなり助かった。(ロング・スプリントを1つの実行委員会で実施する)今回のような形もありだと思すが、インカレスプリント実行委員会が別にできていても、どの団体が(インカレロングの運営に)加わってくれるのであれば、ロングの実行委員会としてはうれしい。
- 齋藤 (実行委員会を構成する)人を集める中心人物や、立案者となる担当理事を作ってしまうのが一番いいと思う。
- 山川 ミドル・リレーは一緒だが、ロング・スプリントは同じ日に開催しても、競技の仕組みや渉外のアプローチは違うので、それぞれ別の担当理事が立案者となり、ロングの実行委員会と相談したりすると、あと、ロングやミドル以上に、外からの経験者のアプローチが多面的に必要なので、山上・実行委員長や大西・技術委員長など数名に関わってもらいたい。
- 齋藤 継続性という話においては、一般クラスやチャレンジクラスについて学生側では決めずに、実行委員会で決めてもらった方がいいと思う。
- 佐藤 確かに、スケジュールの都合などがあるだろう(から、そのようにした方がいいだろう)。
- 山川 (3月の)実験大会の時には、個人的な発想でやったが、チャレンジクラスや一般クラスはいらなくて、その分の赤字は幹事会で通じるのだから、参加費収入で補てんするような大会の枠組みにするべきではないと思、企画した。

宇井 確かにインカレプリントでは、一番大事なものは、観客がいる中で走る競技でのチャンピオンを決めることだから、エリート以外のチャレンジクラス・一般クラスは別物として自由にやらしてもらえばいい。モデルイベントとの兼ね合いでそれらを設けることができないと実行委員会が思えば、やらなくてもよいだろう。

山川 あと、足りないのを助けてほしいとなったら、幹事会で議論すればよい。その年の範囲内で決済はできるだろう。

佐藤 例えば、「一般クラスを作ってほしい」などと決めてしまうと、かなり厳しいことになるだろうから、それは実行委員会に任せ、「出来ればチャレンジクラス・一般クラスを設けてほしい」とお願いするということがいいだろう。また、スプリントをロングの実行委員会と一緒にやるかどうかは、担当理事がやることなので、規定しないほうがいいだろう。

宇井 学生の意見としてチャレンジクラス・一般クラスは設けた方がいいということが出ているので、あった方が望ましいかもしれない。
重要なことは担当理事が決めるということにしたい。

山川 チャレンジクラスを作ってもよいが、今回は赤字になった。継続性の議論のためにも、赤字になった時の措置について考えておいた方がよい。

大西 今回は学連の組織で運営したのだろうか。

山川 ロングとしては初めて、学連の組織で運営した。今まではプロや地域クラブなどの団体に丸投げしたのがほとんどだった。

山上 福井県協会には協力してもらったが、運営母体は金沢大のOBを中心とした実行委員会である。
大西 問題として、た分を地域クラブに負担させるのは筋違いだと思うので、単独で赤字になったときは日本学連がその分を負担するような決まりを作った方がよい。

山上 ロングにはそういった決まりはないのだろうか。

大西 それはない。ただ、学生が全員やってくるので、大会としては参加者が増えるメリットがある。

山上 ただ、マップに支払う調査代は賄えない。

大西 そもそも大会を開催する上で地図調査代はかかるので、そのあたりは大会運営者の考え方の問題だと思う。

山川 そもそも秋にロングを開催しているようになったのは、ロングはミドルほど地図精度を要求されない。仮に3月にロング・リレーをやった場合、調査範囲が広いために時間的・予算的に見合わないからである。
また、ロングとミドルを交換してから、ロングのために地図を新規作成したのは、去年が初めてであり、それまでは過去のデータの上書きや拡張しかなかった。ロングはもともと金銭的に厳しいが、役員は少なく済むので、秋に移した。地図に関しては過去資産を活用しようとした大枠があったが、インカレ参加者が400人にまで落ち込んだところは、それでも予算的に厳しかった。昨年や今年もマップに十分報いておらず、去年の(マップの)西村氏の日当は1万2000円くらいであった。「航空レーザー測量のデータがあるため、いい地図が作れる」と始めたものの、役員が有料だったので、結局そうなった。ただ、今年に関しては違う問題がある。
今後もロングは、地図を1から作成するのは厳しく、既存の地図を拡張するのが基本路線である。今までは長野などに持ってきたときも、参加者が400人の時も、全部ゼロ会計(すなわち<収入>=<支出>、残金がゼロとなる大会会計)であった。ただ、今年は参加者が多かったのも、福井県協会にはお世話になった分、金銭的に報いるつもりであるが、実質はインカレ実行委員会がやったのだが、それによって学連にお金が来ることはロングに関してはあまり考えていない。ただ、(赤字を)補てんしたことはないし、これからも考えていない。

大西 ロングの地図をプロマップが作り上げたのは昨年度が初めてであり、普通のクラブチームが大会を開催するとしても、すべてのエリアをニューマップとすることは最近ではなかなかないし、調査をプロマップにお願いすることもなかなかない。嶽山の例では、3分の1～半分をプロマップ、残りを自分たちでそれぞれ調査していて、すべてプロマップが調査した場合より、お金がかかっていないと思う。
これからどうしていくかはわからないが、とりあえずスプリントだけに関して言えば、その赤字は補てんすべきだと思う。実際今の学連の資産の黒字は、すべてインカレの黒字から来ているようなものである。多少そこで補うのはありだろう。

山川 そもそも全員参加ではない。予算に対する基本思想が違うので十分考えてもいいと思う。

大西 あと、実際に走った人数は200人もいない。(参加者が)700人いるので、チャレンジクラスの出走者がもう少し増えれば、(予算的には)黒字となって大丈夫だと思う。

山川 もう少しかっこよくチャレンジクラスを行えば儲かるような気もする。

宇井 初めてだったこともあり、「モデルイベントに入るので、今回は参加しなくてもいいだろう」という人が多くいたと思うし、今回のアンケート結果を見ると、「チャレンジクラスが面白そうだった」という意見も結構あるので、チャレンジクラス参加者はこれから増えると思う。一方、インカレプリントで出た赤字は学連会計で補てんしなければいけないと思う。

佐藤 (赤字補てんは)正しい学連会計の使い道だと思う。黒字がたまってしまってもしょうがない。

宇井 スプリントの普及につながるお金の使い方だろう。

佐藤 金銭面では大丈夫そうなので、あとは継続性の問題だろう。運営のマンパワーについても担当理事に任せておきたい。

大西 人員整理で人手が必要ならば、学生に声がかかるだろう。

山川 学生が当日役員を務める場合があることを前提としたほうがよいだろう。

山上 渉外的な都合で、チャレンジクラスの時間でも人員整理は必要だが、多くはいらない。

宇井 エリート以外なら誰でも運営はできるであろう。運営に駆り出される可能性があることを確認しておけばいい。

佐藤 人員整理はなるべく上級生が行うのがよい。一般クラスの人はその可能性があることを一言書いておいたり、渉外に告知したりすれば大丈夫だろう。

齋藤 現実的には開催地の学連の幹事や渉外が対象となるだろう。

山川 他の地区より1~2時間早く来てもらう必要があるの、そうなるだろう。

山上 何か特典があると嬉しいだろう。

齋藤 チャレンジクラスを無料で走ったり、全ポスト図をプレゼントするなどがあるだろう。

佐藤 そのあたりは、こちらで細かく決めることではないと思う。

宇井 実行委員会に決めてもらいたい。

山上 そういうことがOKだという風にしておけば、やりやすいと思う。

佐藤 先に、それ(当日の運営に学生が関わることに)がOKなのか、学生に聞いておきたい。

山川 他の競技では普通だが、オリエンテーリングにはなじみのない文化なので、聞いた方がよいだろう

齋藤 ロング再競技では学生が運営をしたことがあったが、それに比べれば労力は大したことではないだろう

山上 仮にプロの方に、運営を含めてすべてをお願いする場合は、その経費はどのように見積もるのだろうか。今回のインカレロングでは、アドバイザー候補の選定が難航し、西村氏(NishiPRO)にお願いすることも一時考えられた。しかし西村氏はプロなので、地図以外の部分が無報酬であるのはいけないと思う。向こうから提示された金額をそのまま飲むのか、それともある程度の請負金額や規定をこちらで決めておけばよいのだろうか。

齋藤 それはその年の実行委員会の予算案がどのくらいできあがっているかどうかと思う。あらかじめ決める話ではないと思う。

大西 大赤字なのにもお願いするのも変な話である。

山上 ただ、補てんされる場合は話が別である。その場合、歯止めをどうかけるが問題である。1回1回の予算が出されてから決めるのか、おおむねこのくらいをベースとするというのがあるべきなのか。

大西 現状として、予算案は提示されていない。

山川 ただ、裏では話し合っている。ロングに関しては、富士でも丸受けしている。スプリントに関しては、ロングと一体ならば次もその丸受けでよいと言っているが、ちょっとかわいそうだと思いがあって、山上実行委員長は発言したのだろう。

山上 今回の地図作成費25万円は、もともと西村氏に、地図作成費と運営費の見積もりをお願いして、それをベースに三上氏に払うという形にした。

齋藤 赤字を補てんすることは全体の会計としては許されるのだが、方針や限度額を決めるべきだ。初めから20万円の赤字を出してもよいというのはおかしい話である。

山川 今回のように報告をつけなくてはいけない。今回は20万円はもらっているが、赤字分という決議だったので、井戸・会計には無理をいって決算書を作ってもらった。ただ、ロングとともに丸受けしたとき、スプリントのみ切り分けて決算尾を作るのは、結構面倒な作業なのである。

宇井 補てんするとしたら、スプリント単体の会計を出してもらった方がいいだろうか。

山上 そうした方がよいと思う。

山川 (現状として)「渉外が固まって大会のかたちが見えてきたところで予算案を出してもらい、事情をわかっている人が検査して、補てんを認めてもらう」という形をとるしかないだろう。チャレンジクラスがうまくできるのなら丸受けでも回るだろうが、厳しいのならその赤字を補てんするしかない。きっちりとした経理報告を求めて、きっちりした赤字分のみ補填するようにしてもよい。

齋藤 大枠が決まってからの話になるが、このくらいの予算なら学生で組んでしまってもいいのではないだろうか。交通費や宿泊費は変動してくるが、参加者は学生全員ではないし、今回の試行大会でたたき台はできている。

山上 個人的にはいいと思う。主催者側が組んだ予算を主管者側が呑めるかどうか問うのは、一般的な大会ではあることだ。

山川 その時の主管者に、渉外が大体終わったところで予算書を出してもらい、赤字の見通しについてみて、その時の幹事会で決済してもらおう。

齋藤 いや、予算はこちらで作る。

山上 それはありだと個人的には思う。「想定される赤字額プラス5万円くらいはOKとする」というような予算が提示されれば、こちらとしても安心感がある。今回は地図面積が狭かったため予算的に助かっただけであり、当初の予定通り広範囲を調査していれば、大赤字であった。

齋藤 現状として、プロマッパーが何人か出てきてようやく仕組みが出来てきたところなので、プロの意見を呑むしかないと思う。スプリントくらいの規模ならばできると思う。参加費も今回と同じくらいになるだろうし、人数も今回より減ることはないと思うので、収入の見込みはすぐ出てくるだろう。あとは、スプリントの普及状況によるが、それは学連の努力次第だろう。スプリントが普及していけば、チャレンジクラスの参加者が増えるだろう。支出は難しいところである。

山川 今回は全部一緒にしているのでよいが、ロングと別開催となった時は備品代・交通費がすべて会計に乗っかってくる。

山上 もし別の要素があって上乘せたいときは、それを出してもらって、仕方ないので出すものとするのか、それとも、「そこにお金を使わなくてもいいのではないだろうか」として、補てんもすべて青天井にしないような仕組みがあった方がいいのではないだろうか。今回ならば、ディスプレイの代金は1万円だったが、これが5万円だったら、いらないということにしてもよいだろう。

齋藤 ああいう資材は学連の費用で一度買ってしまってもいいのではないだろうか。ミドルの時は大変だった。

山上 齋藤 佐藤 齋藤 ただ、郵送料だけでレンタル代を上回ってしまう。
 赤字ありき(の発想)なので、仕組みとしては、これまでと同じではいけないと思う。
 ある程度予算を提示して、このくらいの幅でやってくださいということをお願いするということだろう。
 赤字になって補てんするのはしょうがないとしても、初めから20万円の赤字を出してもいいという
 発想は違うと思う。

山川 自分がうまくやれば儲かるイベントだと思う。うまくいかないときに、渉外的に全部丸抱えするのが
 嫌だと思っている。

齋藤 それは5月の時点で大西さんも言っているし、僕たちもそう思っている。赤字補てんは方向性が出て
 いるし、今日全部決めなくても次回幹事会でしっかり話してもいいと思う。しっかり考えきってもらえば
 いいと思う。まだ1年あるので、細かいことは今年度中に決めればいいたろう。

山川 予算を出してもらって、状況を提示してもらい、基本的に赤字を丸呑みさせないことを決めればい
 いと思う。

宇井 基本的には赤字をすべて学連で負担することはありえない。地図作成費などのお金のかかる部分
 をどの程度切り詰めてもらうかは、今決められることではなさそう。幹事会決済で補てんするつもり
 はあるということにしておきたい。

山川 赤字が総会での決済が必要な(20万円を超える)ほど大きくなることはないと思う。
 佐藤 ある程度枠組みをこちらで作って渡すという感じでいいだろうか。赤字の上限を示したものを作りたい
 山川 ポイントは継続性である。加盟員にわかるようにしてほしい。
 佐藤 いろいろ考えて、継続性を意識したものを作りたい。
 宇井 継続性については、お金のことも運営リソースのことも、大まかな枠組みとしてはよいだろう。
 →次回幹事会で詳しく議論することとなった。

【競技性・公正さについて】

山川 競技性・公正さを完全に追求するは無理であり、最大限努力すればいいと思う。ある程度は実行
 委員会の判断に任されるが、すべてのレッグが走るだけの単調なものでは嫌だろう。

宇井 継続性を保ちつつ、競技性を落とさないようにしていきたいところである。

山川 コントローリング制度については、ロング・ミドルのアドバイザーのアプローチも多面的にかかわっ
 てこないといけないので、文章化していく必要があると思う。

山上 アドバイザーは技術委員会が出すことになっているし、すなわち日本学連が出すことになっている
 ので、スプリントをやってくれそうなそこそ近くにいる人をアドバイザーに任命すればよい。アドバイ
 ザーのコーチは日本学連が持つはずなので、そういうことも可能であろう。フォレストとスプリントはだ
 いぶ性質が変わってくるので、場合によっては、ロングとは別に、スプリントのアドバイザーをつける
 ことも必要だろう。今回はスプリントに関しては試行大会だったので、スプリントのアドバイザーは
 ほぼロングのアドバイザーであり、ロングに影響しないかどうか置いう観点で見てもらった。

山川 イベントとマップとコースについては、できれば別の人物が務めるのがベストである。3人置くのは
 厳しいだろうが、IOFでは地位のある人が4つのベクトルから意見を言う構造になっているようだ。

【スプリントの実施規則について】

大西 ベースとなるものは6月にできているので、そのような文面でよければ、とりあえずいいだろう。そん
 なに具体的なことは書いていない。「こういう形にしていく」という、メッセージというか申し合わせのよ
 うな説明は必要である。いきなり規約だけ出して決議をしようとするのは変であり、幹事会で議論し
 たことを総会の場で説明したり、あるいはそれを事前に説明して意見を募集してから、総会でインカ
 レスプリントの開催を決議すればいいと思う。

山川 短く言えば、ロードマップを作るということになる。大西・技術委員長から規約案を出してもらい、幹
 事会でロードマップをあげてから、決議すればいいだろう。

宇井 総会では時間があまり取れないと思うので、事前に今日話し合ったことを周知しておいて、意見を
 一度集める期間を設けた方がいいと思う。

山上 人数の規定は必須である。今回の人数(男子60、女子30(実際の出走は19))が多かったのか、
 それとも少なかったのかどうか聞きたい。あと、試行大会の割に参加費が高かったという意見があっ
 た。

五味 女子の出場が少なかったのは、参加費ではなく意識の問題と思う。インカレスプリントの試行大会
 が、もし第1回大会だったらもっと出場した可能性があるし、そもそもスプリントという競技に対して、
 女子の中でどのくらいの認知度や意識があるかどうかによって、30人の枠が埋まるかどうかが決ま
 ると思う。「今回枠が埋まらなかったのは参加費が高かったから」という理由で安易に数を決める
 のはよくないと思う。

山上 女子30としたのは、ミドルの選手権Aの数を参考にしたのだが、20にしまうと学連によっては
 数がとても少ない。スプリントという短い距離なので、もう少し増やしたいと思って設定した。

大西 人数的には男子60・女子30はいいと思う。

宇井 今回はインカレとしてスプリントを走るという意識があまりなく、どういものなのかわかっていなか
 った人も多かったのだと思う。

山上 個人的にはこれくらいがいいと思う。運営としてもこれくらいがちょうどよく、少なすぎると寂しいし、
 多すぎるとつらい。このまま開催してみて、状況が変わらなければ考えた方がいいだろうと思う。

佐藤 試行大会だから出なかった人もいると思うので、60・30でやってみた方がいいと思う。

山川 それならば、規則案を出してもらい、ガイドラインやロードマップのようなものを幹事長・副幹事長で
 まとめてもらい、総会で決済すればいいだろう。あとは個別の問題とすればいい。
 ただ渉外の問題は未知数である。これから大きな壁が出てくることも十分に考えられる。

宇井	先に幹事会で出た話をまとめて、規約案とともに展開して、レスポンスをもらい、総会に臨んで決済を取るような流れで行きたい。細かい話はその後に詰めていきたい。
	【テレインの選定について】
山川	ロングの会場のテレインがすごくつまらないが、10km移動すればもっとましなテレインがある場合、学生はどちらを選ぶのだろうか。もし別会場となった場合、役員を増やさなくてははいけないうえ、開会式やロングのモデルイベントがなくなってしまう。
齋藤	どのくらいつまらないのかどうかによると思う。
野本	つまらなさや距離との兼ね合いとなるが、基本的には移動した方がいいと思う。
山川	私は外に出てやるべきだと思うが、山上・実行委員長は会場でやりたいという考えを持っている。
齋藤	結局はテレイン次第であり、実行委員会にお任せするしかない。それはその時に話した方がよい。
大西	それ次第では参加者が激減して問題が出てくるかもしれない。もしかしたら、今回観客が多かったのはモデルイベントがあったからなのかもしれない。
齋藤	3~5年くらいは近くで開催して、スプリントの素地をしっかり作った方がいいのかもしれない。
山川	アンケート結果を見ていると、「コースがつまらない」という意見が結構出ている。
齋藤	日本代表のある関係者には、「(今回のコースでは)結局、走力で勝負ができてしまう」と言われたが、それはしょうがない。ただ、それでも(学生側の)賛成は多かったので、私はびっくりした。
大西	結果を見ると、タイム差がついていて、実力の差が出ている。
糸井川	秒差の争いとなっているのはいいことだと思う。
宇井	実行委員会から言われれば、しょうがないと思う。
山川	もし、移動する場合は観客が600人から300人に減ることを覚悟しなければならず、(会場開催を)強行する場合は競技性に目をつぶるということになる。
宇井	それよりも、スプリントが定着するまでは継続性を重視していくべきだと思う。
佐藤	競技性が劣ったとしても、最初の数年くらいは会場で開催してもいいだろう。
齋藤	(障害物を設けるため、テレイン内に)柵やコーンを置いてもいいだろう。
山川	学生の動員を考えている理由として、マンド・コントロール(有人のポスト)と障害物作成がある。
杉村	有人ポストは海外ではそうになっている。ポストから2mくらい離れたところに人がいる。
山上	規則ではそうになっている。
	休憩(16時17分~16時27分)
	5.次回幹事会について
	【次回幹事会】
	●開催日:1月24日(筑波大学大会前日)
	●開催地:栃木県矢板市付近
	総会終了:18時59分

【備考欄】